

# JR貨物の「賃金抑制」問題

## JR貨物社員の皆さん

# 闘うべき相手は誰でしょうか?!

JR貨物田村社長が「賃金抑制に踏み切ることとしました。」との発言に対して国労は貨物会社にいち早く抗議の申し入れを行い、貨物会社に働く社員にこの不当な計画を明らかにするため宣伝行動等を展開しました。この行動に対して貨物労組本部組織部ピラで、「国労は会社の手先として動く」などと組織部速報を掲示しています。これを受けて一部の方たちが、国労を敵視するような情報を配布していることから真実を明らかにします。

## 会社と「責任組合」幹部とは合意済み

私たちが、今回の抗議の申し入れを行った時点で、会社と貨物労組幹部との間で「賃金抑制に対して合意」済みでした。だから事実を社員に知らせて圧倒的な労働者の怒りでこの不当な計画を撤回させようとしたものです。当初会社は、賃金抑制計画に国労は当然反対するだろうが「貨物労組等の多数の組合との合意で乗り切り、国労に対しては最終的に就業規則の改正で処理をする」との考え方でした。そのために、会社は「25年度事業計画」の国労説明（3月11日、経営協議会）の前に貨物労組と二回のトップ会談、一回の臨時経営協議会を開催していたのです。併せて、貨物労組トップは部外取締役とも会っている事実があります。驚くべきことに、「賃金カットは当然噴くが、それは引き受ける」とまで述べているのです。

このように、自らの組合員にも一切知らせず、秘密裏に賃金抑制計画を実行に移そうとしていたのです。

国労が抗議の申し入れや宣伝行動をして以降、事態が明らかになり、怒りが広がる中で、貨物労組は、急遽「信義誠実の原則から逸脱」と社長発言に対する申し入れを行ったのです。皆さん、自らの経営責任を棚上げし、犠牲を社員と家族に転嫁する賃金カットは断じて許してはなりません。事実を直視し、怒りは、秘密の労使協議で事を進めることに向けるべきです。

事実は一つです。国労は貨物に働く労働者とともに賃金抑制に反対するために全力で闘います。貨物労組が本当に断固反対なら、全組合共同で計画を撤回させようではありませんか。

